

保護者支援・子育て支援 分野

長崎大学 教育学部 脇 信明

はじめに

●自己紹介

- ・長崎大学 教育学部 人間発達講座 准教授 (幼児教育コース)
- ・専門：保育学・保育方法論
- <社会貢献>
- ・日本保育学会 評議委員
- ・全国保育士養成協議会 九州ブロック 監査
- ・全国保育問題研究協議会 集団づくり分科会運営委員
- ・九州保育団体合同研究集会 常任委員 代表
- ・長崎県幼児教育推進懇話会 議長

はじめに

★参加者の状況確認とニーズの把握アンケート



Googleフォーム

保護者支援・子育て支援の意義

「保護者支援」から「子育て支援」へ

「保護者支援」から「子育て支援」へ

(ア)新指針の改定から

「保護者に対する支援」から「子育て支援」へ

「保護者に対する支援」から「子育て支援」へ

- ・保護者と連携して「子どもの育ちを支える」視点を持つ。
- ・子どもの育ちを喜び合うことを通して養育力や保護者の主体性、自己決定を尊重する支援を。

「保護者支援」から「子育て支援」へ

(ア)新指針の改定から

「保護者に対する支援」から「子育て支援」へ

- ① 第 6 章に記載されていた内容が、
第 4 章へ →**保育所の「目的」のひとつ。**

「保護者支援」から「子育て支援」へ

(イ)「子どもの最善の利益」のために

保護者支援・子育て支援を

- ① 私たち保育者は、
子どもの最善の利益の保障をめざして保育をする存在
- ② The Best for Children
=子どもにとっての最善の利益とは・・・

「保護者支援」から「子育て支援」へ

(ウ)「子育て」はもう「それぞれの家庭」に

まかされた事柄ではなく、社会全体で取り組むべき課題であるという認識を社会全体で持つ!

cf.子育てしづらい現代社会
監視されているようだ

社会の変化と子育て負担の増大

社会の変化と子育て負担の増大

(ア) 核家族による影響

・・・学生に聞いても核家族希望が9割

(イ) 少子化による影響

・・・きょうだい数の減少による子育て経験の無さ
加えて、近くにママ友もない少子社会

子育ての相談ができる相手がいるか

核家族は**育児の知識・技術の伝承**が行われにくい

相談相手が近くにいない

具体的な育児方法の見本と助言が得られない

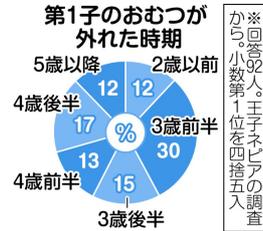
育児方法の知識のなさ（核家族二世世代目の親たち）

オムツが外れる年齢の平均 トイレトレーニング

1990年代 → 2歳4ヶ月

2007年 → **3歳4ヶ月**

(2023年12月13日付 東京新聞朝刊)



外れた時期は「3歳前半」が最多

紙おむつなどを扱う王子ネピア（東京）の
2023年6～7月の調査(92人回答)

第1子のおむつが外れた時期は、
3歳前半（30.4%）が最も多く、
次いで4歳後半（17.4%）、
3歳後半（15.2%）の順だった。

家事・育児の共有化・分担化が行われているか

核家族は**家事・育児を母親が一人で負担**

家事の不慣れさからくる時間と労力の疲労

出産による生活の劇的な変化に追いつけない親

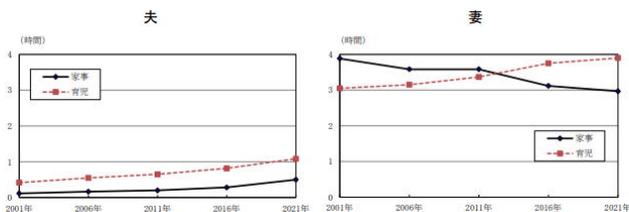
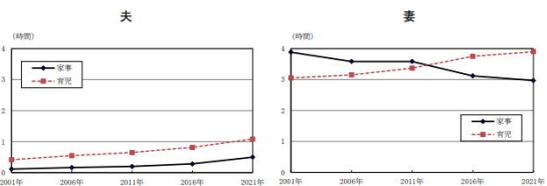
育児方法の経験のなさ（核家族二世世代目の親たち）

総務省の2021年度「社会生活基本調査」より

男性の暮らしは変わりつつあり、家事・育児などにあてる時間は過去最長の1時間54分となったことが明らかになった。

しかし、女性の家事関連時間は7時間28分で、男性の3.9倍以上に上る。

男性の家事・育児の参画時間が増えているものの、女性に比べるとかなり短いことが浮き彫りになった。



	夫				
	2001年	2006年	2011年	2016年	2021年
家事関連	0.48	1.00	1.07	1.23	1.54
家事	0.07	0.10	0.12	0.17	0.30
介護・看護	0.01	0.01	0.00	0.01	0.01
育児	0.25	0.33	0.39	0.49	1.05
買い物	0.15	0.16	0.16	0.16	0.18

	妻				
	2001年	2006年	2011年	2016年	2021年
家事関連	7.41	7.27	7.41	7.34	7.28
家事	3.53	3.35	3.35	3.07	2.58
介護・看護	0.03	0.03	0.03	0.06	0.03
育児	3.03	3.09	3.22	3.45	3.54
買い物	0.42	0.40	0.41	0.36	0.33

	夫				
	2001年	2006年	2011年	2016年	2021年
家事関連	0.48	1.00	1.07	1.23	1.54
家事	0.07	0.10	0.12	0.17	0.30
介護・看護	0.01	0.01	0.00	0.01	0.01
育児	0.25				1.05
家事関連	7.41	7.27	7.41	7.34	7.28
家事	3.53	3.35	3.35	3.07	2.58
介護・看護	0.03	0.03	0.03	0.06	0.03
育児	3.03				3.54
買い物	0.42	0.40	0.41	0.36	0.33

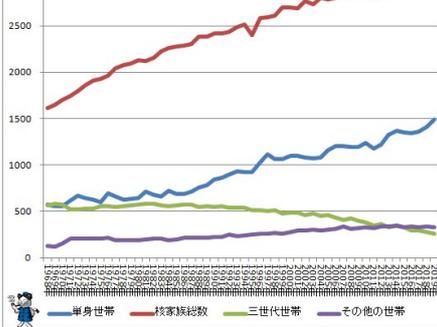
男女とも、育児の時間が20年前より増えている！
少子化で家庭内のきょうだい数も減っているのになぜ？

非常時（ケガや疾病・行事など）のフォロー体制の有無

親の疾病ひとつで生活が不安定になる

子どもは即「保育を必要とする状態」となる
母親の疾病は生活難を引き起こす
父親の疾病は経済難を引き起こす
いつもギリギリの不安感を抱えた生活を送る

増える核家族世帯の割合



核家族は育児の知識・技術の伝承が行われにくい

核家族は家事・育児を母親が一人で負担

親の疾病ひとつで生活が不安定になる

家族同士の支援がない今、
社会全体での「子育て支援」の機能の充実が必要！

表1 家族類型別虐待種別

(単位 例、()内%)

	総数	身体的虐待	ネグレクト	性的虐待	心理的虐待
総数	119(100)	46(38.7)	55(46.2)	8(6.7)	10(8.4)
ステップファミリー	29(100)	16(55.2)	5(17.2)	5(17.2)	3(10.3)
実父母家族	33(100)	14(42.4)	16(48.5)	1(3.0)	2(6.1)
祖父母実父母	2(100)	1(50.0)	1(50.0)	-	-
父子家族	3(100)	1(33.3)	2(66.7)	-	-
母子家族	49(100)	14(28.6)	29(59.2)	1(2.0)	5(10.2)
その他家族	3(100)	-	2(66.7)	1(33.3)	-

出典：中澤香織「家族構成の変動と家族関係が子ども虐待へ与える影響 -母親の家族内における立場に注目して-」『厚生指標』第59巻第5号,2012 p21

	総数	身体的虐待	ネグレクト
総数	119(100)	46(38.7)	55(46.2)
ステップファミリー	29(100)	16(55.2)	5(17.2)
実父母家族	33(100)	14(42.4)	16(48.5)
祖父母実父母	2(100)	1(50.0)	1(50.0)
父子家族	3(100)	1(33.3)	2(66.7)
母子家族	49(100)	14(28.6)	29(59.2)
その他家族	3(100)	-	2(66.7)

出典：中澤香織「家族構成の変動と家族関係が子ども虐待へ与える影響 -母親の家族内における立場に注目して-」『厚生指標』第59巻第5号,2012 p21

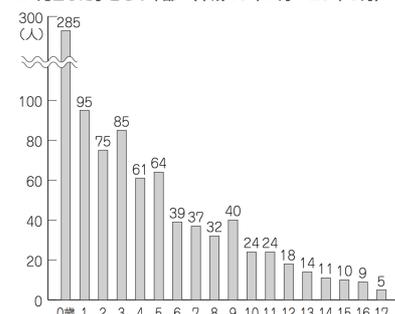
祖父母実父母（拡大家族）による虐待数の割合が、 他の家族（核家族世帯）に比べて、圧倒的に少ない！

総数	119(100)	46(38.7)	55(46.2)
ステップファミリー	29(100)	16(55.2)	5(17.2)
実父母家族	33(100)	14(42.4)	16(48.5)
祖父母実父母	2(100)	1(50.0)	1(50.0)
父子家族	3(100)	1(33.3)	2(66.7)
母子家族	49(100)	14(28.6)	29(59.2)
その他家族	3(100)	-	2(66.7)

出典：中澤香織「家族構成の変動と家族関係が子ども虐待へ与える影響 -母親の家族内における立場に注目して-」『厚生指標』第59巻第5号,2012 p21

V-8-2図 児童虐待死亡事例の推移

1. 死亡した子どもの年齢（平成15年7月～25年3月）



社会の変化と子育て負担の増大

(ア) 核家族による影響

・・・学生に聞いても核家族希望が9割

(イ) 少子化による影響

・・・きょうだい数の減少による子育て経験の無さ
加えて、近くにママ友もない少子社会

家庭内の子どもの数の減少

過保護・過干渉へ

大切に育てたいという意識

少子化

数少ない我が子
かけがえのない存在



子どもの将来を心配する意識

教育加熱へ

早期教育・塾の利用・能力主義

家庭内の子どもの数の減少

家庭内のきょうだい数の減少

少子化



多様な人間関係を学ぶ機会の減少

少子化

地域の子どもの数も減少

地域での子ども同士の関わりが減少

小学校・幼稚園でのクラス数の減少
子ども会やPTA組織の衰退

地方は周囲の園を統合し大規模園へ
地域密着型の園から多機能大規模型へ

地域の子育て仲間の減少

少子化

相談相手（ママ友）がない
父親は育児に不参加（育児休業取得率の低さ）
外で遊べない親
部屋にひきこもっての育児（密室育児）
外界との断絶
育児不安・育児ストレス

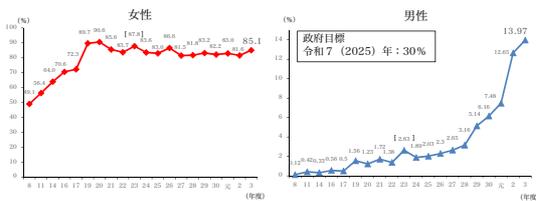
厚生労働省によると、（2021年度の統計調査）

女性の育児取得率は **83%**

男性の育児休業取得率は **14%**
2019→7.48%

厚生省は2025(R7)年度までに男性の育児取得率を**30%**にする
目標を立ててはいたのだが・・・

○育児休業取得率は、女性は8割台で推移している一方、男性は上昇傾向にあるものの女性に比べ低い水準となっている（令和3年度：13.97%）。



育児休業取得率 = 出産者のうち、調査年の10月1日までに育児休業を開始した者（開始予定の申告をしている者を含む）の数
調査前年の9月30日までの1年間（前）の出産者（男性の場合は配偶者が死亡した者）の数

（注）平成22年度以前調査においては、調査前年度の1年間。
（注）平成23年度は、1月の場合は、若手職、宮内職及び福島県を除く全国の結果。

資料出所：厚生労働省「雇用均等基本調査」

男女の育児休業の取得期間の状況

○育児休業の取得期間は、女性は9割以上が6か月以上となっている一方、男性は約5割が2週間未満となっており、依然として短期間の取得が中心となっているが、男性の「1か月～3か月未満」の取得は24.5%で、3番目に多い取得期間となっている。

	取得期間											
	5日未満	5日～	2週間	1月	3月	6月	8月	10月	12月	18月	24月	36月
女性]	0.8	0.3	0.6	2.2	7.8	10.2	12.7	31.1	27.6	4.0	2.0	0.6
平成27年度	0.5	0.3	0.1	2.8	7.0	8.8	10.9	31.3	29.8	4.8	3.3	0.5
令和3年度	0.5	0.0	0.1	0.8	3.5	6.4	8.7	30.0	34.0	11.1	4.5	0.6
男性]	56.9	17.8	8.4	12.1	1.6	0.2	0.7	0.1	2.0	0.0	-	-
平成27年度	36.3	35.1	9.6	11.9	3.0	0.9	0.4	0.9	1.7	-	0.1	-
令和3年度	25.0	26.5	13.2	24.5	5.1	1.0	1.1	1.4	0.9	0.0	0.2	-

2週間未満が51.5%

調査対象：各事業所で調査対象年度に育児休業を取得し、帰職した者
資料出所：厚生労働省「雇用均等基本調査」

近年の事例から見る保護者支援の対象となる
「保育者が困ると感じる保護者」とは

近年の事例から見る保護者支援の対象となる
「保育者が困ると感じる保護者」とは

(ア) 「困るな」と思う親の姿とは…

(イ) 「どう働きかければいいのか？」
ってついつい悩んでしまいますよね？



だから、保護者支援とコミュニケーションの学習に
わざわざ来られたのですよね…

近年の事例から見る保護者支援の対象となる
「保育者が困ると感じる保護者」とは

(ア) 「困るな」と思う親の姿とは…

(イ) 「どう働きかければいいのか？」
を考える前に…親の現状を知ること



なぜ自子中心的なのか なぜその育児方法を選択？
なぜ我が子のことをイチバンに考えないの？
なぜ子どもに関心がないの？

近年の事例から見る保護者支援の対象となる
「保育者が困ると感じる保護者」とは

(イ) 気になる親 ①・・・親との関わりについて
未熟タイプ
自己中心タイプ
不安が強いタイプ (子どもへ or. 自分の育児)
子どもの気持ち無視タイプ ex)パフォーマンス率を求める親
子どもの召使いタイプ ex) Goさんの寝る前の絵本読み

近年の事例から見る保護者支援の対象となる
「保育者が困ると感じる保護者」とは

(ウ) 気になる親②
・・・大人同士 (保育者と親、親同士) の関わり

個人的価値観押しつけタイプ
無理難題要求タイプ
親同士のトラブルタイプ
攻撃性や度重なるクレーム 病気や障がいによることも

大切なのは、その「要求」(ニーズ)の奥底にある理由
や考えなどに目を向けること!

保育者と親との意識のズレ・・・感じていますか？

保育者と親との意識のズレ・・・感じていますか？

(ア) 保育者の意識と親の意識のズレとは



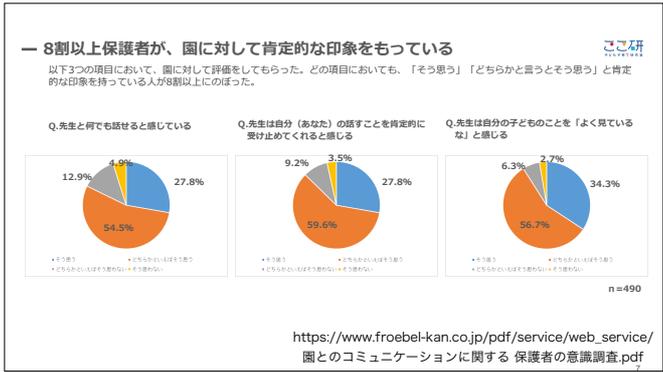
園とのコミュニケーションに関する
保護者の意識調査

目的 園に通う子どもの保護者の、園とのコミュニケーションについての思い、課題を明らかにする。

対象者 園に通う0～5歳児がいる「ASOPPA!」会員
490名

期間 2023年12月4日～2024年1月14日

https://www.froebel-kan.co.jp/pdf/service/web_service/園とのコミュニケーションに関する保護者の意識調査.pdf



保育者と親との意識のズレ・・・感じていますか？

(イ) 保育者が抱く「親」の意識や ねがいは？

- ① 「子どものために」を第一に考えて！
- ② だから親にもまずは「我が子のため」を優先して
- ③ 親と子が一緒に過ごす時間こそ親の幸せでしょ！
幸せを感じて！今しかないのよ！
- ④ 正しい子育て知識を身につけて欲しい
(伝えたい→理解して！)

保育者と親との意識のズレ・・・感じていますか？

(ウ) 親が抱く「保育者」への意識は？日々の保育に感謝しながらも

- ① 先生はプロだ
きっとスゴイ子育てをしているに違いない
- ② 子育てについてとやかく言われたくない
指摘や批判をされたくない
- ③ 子どもも大事・・・旦那も大事、家庭もそして自分も・・・
だけど目の前の仕事(生活)があっただけの暮らしなんだ
- ④ ゆとりのある子育てをしたいができないんだ！

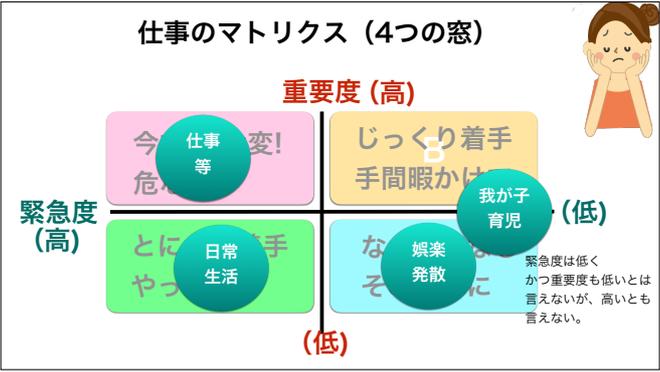
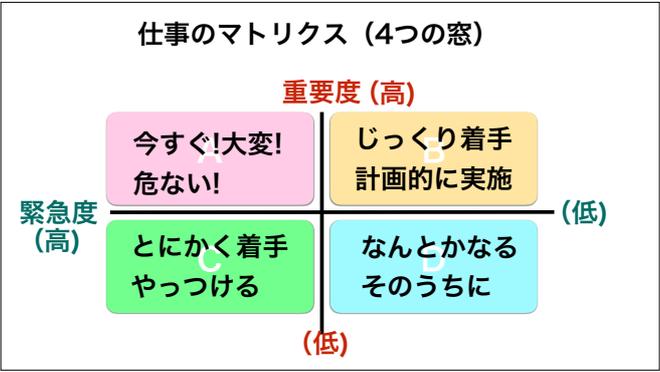
保育者と親との意識のズレ・・・感じていますか？

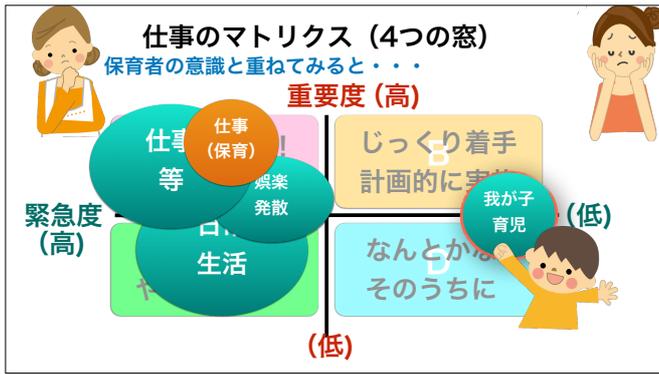
(エ) 「子どものために」ばかりを親に言っても
伝わらないどころか「拒否」されるのはなぜ？



保育者と親との意識のズレ・・・感じていますか？

仕事のマトリクス (4つの窓)





仕事のマトリクス (4つの窓)

「保育 (子育て) = 仕事」の保育者と
 「保育 (子育て) = 生活の一部」の親では
 その取組みの意識に大きな「溝」が!

「気付いて！」 「なんとかなるでしょ」

保育者と親との意識のズレ・・・感じていますか？

(イ) 「どう働きかければいいのか？」
 を考える前に・・・親の現状を知ること

加えて・・・
 (ウ) 「どう伝えればいい？」 「何て話せばいい？」と
方法ばかりに意識が向いていませんか？

どういう言葉をかければ親は気付いてくれるの？
 どういう言葉をかければ親は変わってくれるの？

実は・・・方法ばかりに気を取られると上手くいかないことも

保育者と親との意識のズレ・・・感じていますか？

(ウ) 「どう伝えればいい？」 「何て話せばいい？」と
方法ばかりに意識が向いていませんか？

【事例-1】 「我が子にひどいことをしていることを訴えてきたケース」
出典：永野典詞・岸本元気『保育士・幼稚園教諭のための保護者支援』風鳴社,2016,p2

Q.この事例から、どういふギモンが思い浮かびましたか？
 周囲の人と考えを交わしてみましょう

【事例-1】 「我が子にひどいことをしていることを訴えてきたケース」

Q.この事例から、どういふギモンが思い浮かびましたか？
 この事例に対して上記のように問うと、2つのギモンがでてきます

ア) 「どう伝えれば良かったの？」 (方法=対処法的思考)

●●●●という言い方のほうが、良かったのだろうか？
 △△△△という言い方の方が、納得してくれたのだろうか？
 よし！まずは明日は●●●●と伝えてみよう！
 →なぜそうなったのか、理由もわからないまま、
 とにかく解決策を模索しながら進もうとしている状態
あたかもナビなしに「東京スカイツリー」にドライブしようとしているに等しい

【事例-1】 「我が子にひどいことをしていることを訴えてきたケース」

Q.この事例から、どういふギモンが思い浮かびましたか？

イ) 「母親はなぜ気分を害し、何に腹を立てたのだろうか？」
 (原因=解明的思考)

(この直後の相談に乗った保育士の立場・意見として・・・)
 私はお母さんの感情に共感したつもり。
 その悩みは多くのお母さんが辿るものであり「解決策はあるよ！」と見通し
 を与えたかっただけに・・・。

【事例-1】 「我が子にひどいことをしていることを訴えてきたケース」

Q.この事例から、どういふギモンが思い浮かびましたか？

イ) 「母親はなぜ気分を害し、何に腹を立てたのだろうか？」
 (原因=解明的思考)

(相手の立場で考えてみる)
 けど・・・今改めて考えてみると・・・
 お母さんの立場からしてみると、「あなたの悩みは(その他大勢と同じで)
 カルイですね」と言われた気がしたのかも。
 自分のことを理解してもらえなかった、話を聞いてもらえなかった、気にし
 すぎ、という意図に捉えられてしまったのかもしれない。

【事例-1】 「我が子にひどいことをしていることを訴えてきたケース」

Q.この事例から、どういふギモンが思い浮かびましたか？

イ) 「母親はなぜ気分を害し、何に腹を立てたのだろうか？」
 (原因=解明的思考)

(解決策・今後の対応策)
 相談の開始時は「相手の感情(つらい・苦しいなど)に共感する」ようにして、
 「相手がやっていること」については安易に他人と比較したり、他人と同じだ
 と決めつけられたりせず、もっとゆっくり相手が話し終えるまでつきあってい
 く事が大切なのではないのだろうか。

イ)「母親はなぜ気分を害し、何に腹を立てたのだろう?」

(相手の立場で考えてみる) (原因=解明的思考)

けど・・・今改めて考えてみると・・・
お母さんの立場からしてみると、「あなたの悩みは(その他大勢と同じで)カライですね」と言われた気がしたのかも。
自分のことを理解してもらえなかった、話を聞いてもらえなかった、気にしすぎ、という意図に捉えられてしまったのかもしれない。

(解決策・今後の対応策) (方法=対処法的思考)

相談の開始時は「相手の感情(つらい・苦しいなど)に共感する」ようにして、「相手がやっていること」については安易に他人と比較したり、他人と同じだと決めつけられたりせず、もっとゆっくり相手が話し終えるまでつきあっていく事が大切なのではないのだろうか。

保育者と親との意識のズレ・・・感じていますか?

(ウ)「どう伝えればいい?」「何て話せばいい?」と
方法ばかりに意識が向いていませんか?

保護者とのコミュニケーションを考えるためには、 まずは「親の意識」を理解することから

はじめていきたいと思います。

保育者と親との意識のズレ・・・感じていますか?

「困る子は困っている子」と言われます!

保育者が「困るなあ」とつついってしまう子は、
実はその子自身がどうしていいかわからず、ただ、
「困っている」だけなのではないだろうか



保育者と親との意識のズレ・・・感じていますか?

「困る子は困っている子」と言われます!
保育者が「困るなあ」とつついってしまう子は、
実はその子自身がどうしていいかわからず、ただ、
「困っている」だけなのではないだろうか

「困っている時」に
「わたし困っています!」と
子どもはなかなか言えないもの!



保育者と親との意識のズレ・・・感じていますか?

「困っている時」に
「わたし困っています!」と
子どもはなかなか言えないもの!

素直に「私、困っています」とか、
そう簡単には言えないのが「おとな」
つまりは親も「困った」を表に出さない!?



保育者と親との意識のズレ・・・感じていますか?

素直に「私、困っています」とか、
そう簡単には言えないのが「おとな」
つまりは親も「困った」を表に出さない!?

「私を困らせた原因である園(保育者)に
に腹を立てている!」のかもかもしれない?



親との関係性を捉え直す

親との関係性を捉え直す

(ア) 要領や指針では親は親は「指導」の対象
として記載されてはいるが・・・

- ① お互いが大人同士であるということ
いくら相手が年下でも、未熟であっても・・・
- ② 大人はそう簡単にはジブンを変えられない!
苦手なものは苦手! 克服するためには多大なエネルギーと支援が必要
- ③ 大人の変化を引き起こすのは、子どもの変化(成長)!

親との関係性を捉え直す

- (イ) 「子ども家庭福祉」という意識を持つ
- ・ 「子ども」中心から「親も子ども」に意識変化を
- ① 親も子どもも幸せになる方向性を探る
- 子ども含めた家庭みんなが幸せになる



私の担当している

その子が幸せ

・・・だけでいいの？

親との関係性を捉え直す

- (イ) 「子ども家庭福祉」という意識を持つ
- ・ 「子ども」中心から「親も子ども」に意識変化を
- ② 子どもの最善の利益=子どもにとっての幸せとは？
- 「自分（子ども）だけが幸せ」でいいはずがない
- (どんな親でも親は親であり、子どもには大切な存在)

親との関係性を捉え直す

子どもを真ん中に置いた関わりではなく、
三角関係を持つ

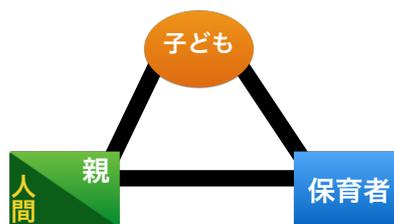
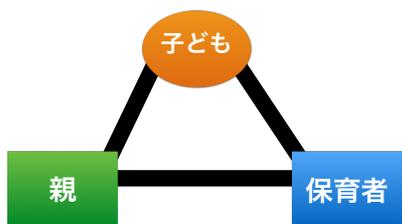
子どもを真ん中においた関係性



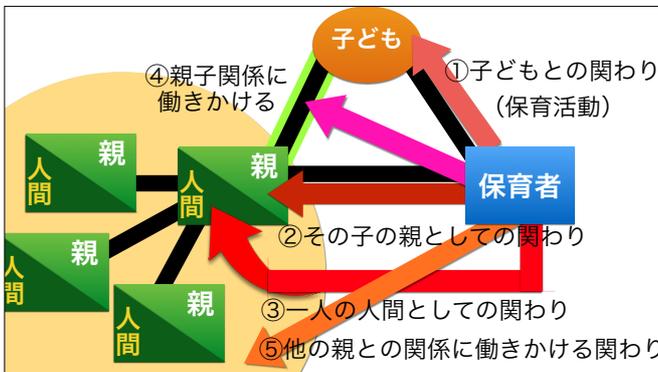
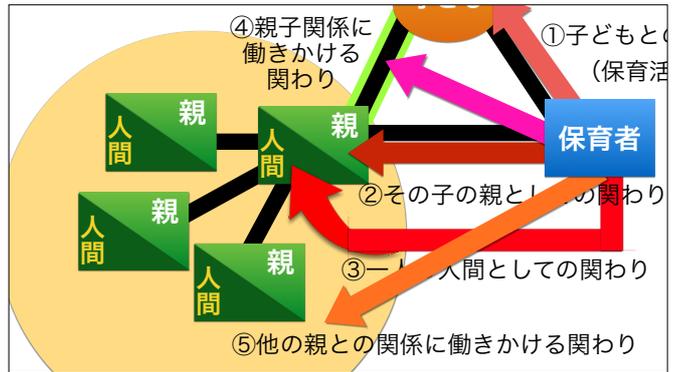
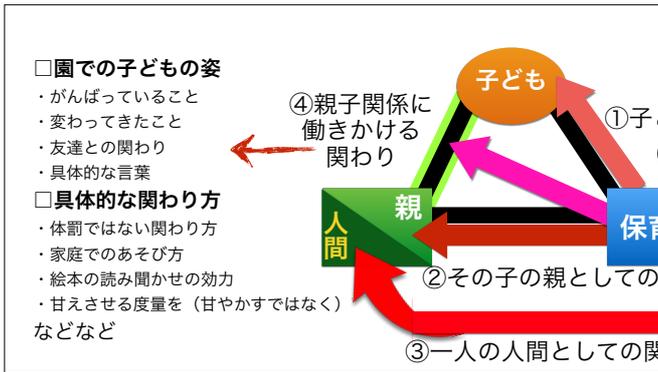
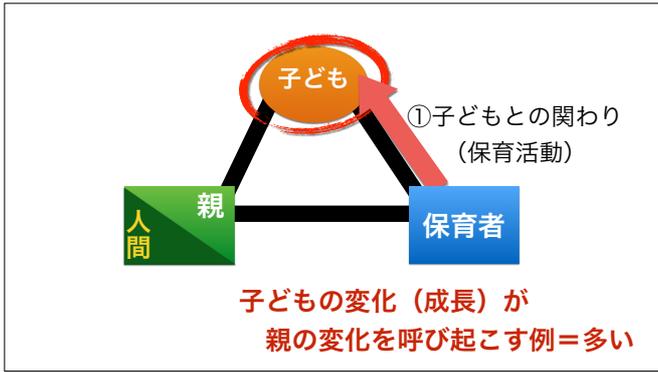
子どもを真ん中においた関係性



子どもを真ん中においた関係性



親として生きているだけではない
一人の人間（個人）としての一面も



親との関係性を捉え直す

子どもを真ん中に置いた関わりではなく、
三角関係を持つ

**親の役割を求めているだけでは解決しない
一人の一個人として理解してみる
理解されている安心感と仲間がいる喜びを!**

親が担任に望むことの5つ

親って、担任(保育者)に何を望んでいるのでしょうか?
親とのコミュニケーションや支援の在り方を考えるためには、
その親の考え・ニーズ・意識を知ることが、きっと大切なはず

- 親が担任に望むことの5つ**
-
- A. ほしい
 - B. ほしい
 - C. たくさん
 - D. ということに共感してほしい
 - E. 子育ての悩みを聞いて欲しい(でも相談しにくい)
-

親が担任に望むことの5つ

我が子の心配

- A. お友達と仲良くさせてほしい
- B. うちの子をよく見てほしい
- C. たくさん遊ばせて欲しい (外遊び)

- 他者との友だち作りが下手な世代の親たち
…我が子には「安心できる友だちづくり」
それ以上に「他児との関わり方を育てて欲しい」という思い
- いまの親＝「仲間はずれに敏感」な世代…SNSなどのはしり
- 過去の親自身の体験が絡んでいるケースも？
- 外遊びを大切に＝幼児教育のキホンを知っている＝情報通
「自分は外遊びは苦手」だからこそ園へ期待する（プロですから）
同時に「ケガなく安全に遊ばせて」という願いも

親が担任に望むことの5つ

我が子の心配

- A. お友達と仲良くさせてほしい
- B. うちの子をよく見てほしい
- C. たくさん遊ばせて欲しい (外遊び)

- Bを求める親を「親バカ」「保育現場知らず」と思った瞬間から、コミュニケーションの歯車はズれていきます。
そして、その意識が親への態度として出てしまう
→すると「この保育者は私（親）の気持ちがわかっていない！」と保育士に対して冷たい目や口調に
→これがコミュニケーションを閉じてしまう原因に！

我が子の心配

- B. うちの子をよく見てほしい
- C. たくさん遊ばせて欲しい (外遊び)

- Bを求める親を「親バカ」「保育現場知らず」と思った瞬間から、コミュニケーションの歯車はズれていきます。
そして、その意識が親への態度として出てしまう
→すると「この保育者は私（親）の気持ちがわかっていない！」と保育士に対して冷たい目や口調に
→これがコミュニケーションを閉じてしまう原因に！

「ヘヤゴムがなくなった」「パンツが他の子と入れ替わっている」程度でも、親にとっては「モノがなくなった」ということ以上に「我が子を見てくれないかも」「ほったらかしにされている？」と疑念をもたれるには十分！

我が子の心配

- B. うちの子をよく見てほしい
- C. たくさん遊ばせて欲しい (外遊び)

- Bを求める親を「親バカ」「保育現場知らず」と思った瞬間から、コミュニケーションの歯車はズれていきます。
そして、その意識が親への態度として出てしまう
→すると「この保育者は私（親）の気持ちがわかっていない！」と保育士に対して冷たい目や口調に
→これがコミュニケーションを閉じてしまう原因に！

モノがなくなる＝子どもを見ていないという不信が膨らむ前に…まずは紛失のおわびに加えて「すごく大事にされていたのですよね。●●ちゃんも、とても気に入ってましたもんね。今日だって…」と子どもの感情に共感する姿勢を！

親が担任に望むことの5つ

- D. 子育ては楽しいけれど大変でもあるということに共感してほしい
- E. 子育ての悩みを聞いて欲しい (でも相談しにくい)

自分の子育ての安心感

- 仕事の忙殺感と子育ての負担感と核家族の綱渡りのギリギリの生活
- 親自身のきょうだいの少なさ。＝育児知識「ゼロ」はもうフツウ。
- 「ゼロ」でも”とにかく頑張っている私”を、だれかに褒めてもらいたい。
＝こんなに頑張っているのに、誰からも褒めてもらえない！（不満）
- 園からの「あれして」「これして」にも対応し続けているのに！
- 仕事では男女平等の働き方を求められ、一方で家庭や子育ては母親の負担が突出（母：父の家事負担は4:1）→**ねぎらいの言葉**を！

親が担任に望むことの5つ

- D. 子育ては楽しいけれど大変でもあるということに共感してほしい
- E. 子育ての悩みを聞いて欲しい (でも相談しにくい)

自分の子育ての安心感

仕事・家事・子育ての両立に取り組んでいる親を理解する姿勢、まなざし、傾聴、ねぎらいが…
保育者への信頼感・つながり感・パートナー感を生み親自身の「主体性」を育むことにも繋がる！

事例やワークから保護者対応を考える

事例から保護者とのコミュニケーションを学べるものがたくさんあります

事例やワークから保護者対応を考える

【事例-2】「急に怒りだしたお母さん」

事例やワークから保護者対応を考える

【事例-2】「急に怒りだしたお母さん」

Q.なぜ怒りだしたのでしょうか？

考えられるだけ理由を挙げてみましょう。

手のひらを返したような態度には

きっと何か理由があるはずですよ。



(原因＝解明的思考) 保育者側から、お母さん側に立ってみる！
思考の立ち位置チェンジ！

事例やワークから保護者対応を考える

【事例-2】「急に怒りだしたお母さん」

この保育士の共感してしまい、反対にお母さんに驚きと憤慨を感じてしまっていないか？

とりわけ・・・「日中の生活について、率直に伝えたところ」が転換点のようです。ここに何かしらのヒントがあるかもしれません。

事例やワークから保護者対応を考える

(原因＝解明的思考)

障がいを持っている子には、どうしても注意を向けがち。とりわけ、保護者との関係も意識されている状況だと、なおさらです。「私（保育者）が、しっかりしなきゃ！この子のため、お母さんのため！」と思いが強すぎるあまり、過度に子どもを意識することに。

ロックオン状態となり、いつも一挙手一投足を監視しがち。
ついつい「●●くん！」と注意をしてしまいがちに・・・

事例やワークから保護者対応を考える

(原因＝解明的思考)

また加配がつくことで、他児との関わりと隔離されてしまうことになってしまったということはないでしょうか？

障がいを持つ我が子だって、他児と「なかよく」でき、
他児と「関われる」力を持てるようになってほしいのに・・・

事例やワークから保護者対応を考える

(原因＝解明的思考)

また加配がつくことで、他児との関わりと隔離されてしまうことになってしまったということはないでしょうか？

障がいを持つ我が子だって、他児と「なかよく」でき、
他児と「関われる」力を持てるようになってほしいのに・・・



「日中の生活について、率直に伝えたところ・・・」
生活のどういう姿を「率直」に伝えたのでしょうか。
園への信頼が壊れるほどのショックを親に与えてしまった

事例やワークから保護者対応を考える

(原因＝解明的思考) 保育者側から、お母さん側に立ってみる！
思考の立ち位置チェンジ！

お母さんの入所手続きの思いを考えてみましょう。

「障がい児枠」の申請をするとき、お母さんの思いは？

”恵まれた環境で、豊かな集団生活を送って欲しい”ではないでしょうか。

親の内心

ウチの子が「いろいろできるようになってほしい」なのに、次第に
あれこれと他児とのトラブルや我が子ができないこと、目につくこと
について、それを私に告げてくる！

事例やワークから保護者対応を考える

(原因＝解明的思考) 保育者側から、お母さん側に立ってみる！
思考の立ち位置チェンジ！

親の内心

ウチの子が「いろいろできるようになってほしい」なのに、次第に
あれこれと他児とのトラブルや我が子ができないこと、目につくこと
について、それを私に告げてくる！

「信頼関係を基礎に」とあるが、いくら”信頼関係ができてい”
と保育者側が勝手に思っても、さすがに我が子の課題面ばかりを率直に
言われたら関係もあつという間に崩れてしまうのではないのでしょうか

事例やワークから保護者対応を考える

【事例-3】「娘をネグレクト状態にしている母親」

事例やワークから保護者対応を考える

【事例-3】「娘をネグレクト状態にしている母親」

Q.どのように母親の行動を改めさせることができるか？
という“問い”が先に頭に浮かんでくるかもしれませんが・・・

Q.なぜ母親はこういう暮らし(生活)になっているのだろう
なぜ子どもへの愛し方が偏ってしまっているのだろう
という視点から考えていくことが大切になります



事例やワークから保護者対応を考える

(原因=解明的思考)
Q.なぜ母親はこういう暮らし(生活)になっているのだろう
なぜ子どもへの愛し方が偏ってしまっているのだろう

このような関係性のいびつさ、偏りが見られる場合、

今 の子育ての姿 の奥底にある意識としては・・・実は・・・

過去 の自分が受けてきたものが表出
の体験しか「愛する」方法がわからない
ということが多い

事例やワークから保護者対応を考える

(原因=解明的思考)
Q.なぜ母親はこういう暮らし(生活)になっているのだろう
なぜ子どもへの愛し方が偏ってしまっているのだろう

このような関係性のいびつさ、偏りが見られる場合、

今 娘を愛せない

過去 娘である自分が母から愛されていなかったこと
愛されたという実感を持たないまま大人になった
ということが多い

事例やワークから保護者対応を考える

(原因=解明的思考)
Q.なぜ母親はこういう暮らし(生活)になっているのだろう
なぜ子どもへの愛し方が偏ってしまっているのだろう

他の異性との表面的な関係を点々としていく
ことで「見捨てられ感」を感じなくてすむ
ように「自己防衛」している姿なのでは

事例やワークから保護者対応を考える

(原因=解明的思考)
Q.なぜ母親はこういう暮らし(生活)になっているのだろう
なぜ子どもへの愛し方が偏ってしまっているのだろう

「母親なんだから」や「がんばりなさい」という励ましは聞かない
ということがなんとなくわかりますよね

少なくとも、こういう母親に「否定的なまなざし」を送らないこと
自分に向けられるまなざしが「温かい」「受けとめてくれる」を
感じてくれると、少しだけ心を許している話してくれるかも。

子どもにだけは「あたたかい大人の存在」「安心」を与えていく



発達面で「気になる子」の「親」へのアプローチ

発達面で気になる子の親へのアプローチ

(ア)我が子のことに過度に不安になっている親、
逆に我が子の様子を認めない親

過度に不安になっている親

両方とも、困ることも多い

我が子の様子を認めない親

しかし

分けて考えることが大切!

(ア)我が子のことに過度に不安になっている親、
逆に我が子の様子を認めない親

過度に不安になっている親

いろんな方法を探して、家庭内で試したり・・・

いろんな施設を訪問・通所させたり・・・



過度に不安になっている親

いろんな方法を探して、家庭内で試したり・・・

いろんな施設を訪問・通所させたり・・・

我が子への「違和感」→不安感
「あのとき●●していたら」と後悔・・・
もう後悔したくない!
「いい」と言われること、思うこと、全部やりたい!



過度に不安になっている親

いろんな方法を探して、家庭内で試したり・・・

いろんな施設を訪問・通所させたり・・・

不安 見通しのなさ
混乱 不満足
疑問 ピッタリ感のなさ
前向き 積極的
未来志向



過度に不安になっている親

いろんな方法を探して、家庭内で試したり・・・

いろんな施設を訪問・通所させたり・・・

不安 見通しのなさ
混乱 不満足
疑問 ピッタリ感のなさ
前向き 積極的
未来志向

これらの思いを「聞く」(傾聴)すること!
心を軽くしたり本音や悩みを話し合える関係になることが大切!



過度に不安になっている親

いろんな方法を探して、家庭内で試したり・・・

いろんな施設を訪問・通所させたり・・・

不安 見通しのなさ
混乱 不満足
疑問 ピッタリ感のなさ
前向き 積極的
未来志向

「がんばっている」ことへの認めと、子どもも「日々の成長している姿」を伝えること



発達面で気になる子の親へのアプローチ

(ア)我が子のことに過度に不安になっている親、
逆に我が子の様子を認めない親

我が子の様子を認めない親

話をしても「そのうち変わる」と相手にしてもらえない
「うちの子は普通です!」と聞き入れてもらえない
「ちょっと考えさせてください」と決断を先延ばし



我が子の様子を認めない親

話をしても「そのうち変わる」と相手にしてもらえない
「うちの子は普通です!」と聞き入れてもらえない
「ちょっと考えさせてください」と決断を先延ばし

実は・・・いずれの親も
我が子の様子に気付いている
のではないのでしょうか?

ex:自分のコトになると「一歩」が踏み出せないことってありませんか?



我が子の様子を認めない親

話をしても「そのうち変わる」と相手にしてもらえない
「うちの子は普通です!」と聞き入れてもらえない
「ちょっと考えさせてください」と決断を先延ばし

期待する
わかっている
時間と余裕

対立関係に?

早期支援を
この子のため
今が大変




我が子の様子を認めない親

話をしても「そのうち変わる」と相手にしてもらえない
「うちの子は普通です!」と聞き入れてもらえない
「ちょっと考えさせてください」と決断を先延ばし

期待する わかっている 時間と余裕

気持ちが追いつかない 整理がつかない 決断できない
先生の言うことは「正論」だ
先に言われたことがショック なぐさめや憐れみ
先生は子どもの可能性を信じていない?



我が子の様子を認めない親

話をしても「そのうち変わる」と相手にしてもらえない
 「うちの子は普通です!」と聞き入れてもらえない
 「ちょっと考えさせてください」と決断を先延ばし

わかっていない 気持ちが追いつかない
 期待する 時間と余裕 整理がつかない
 決断できない 先生の言うことは「正論」だ
 先に言われたことがショック
 なぐさめや憐れみ
 先生は子どもの可能性を信じていない?



我が子の様子を認めない親

話をしても「そのうち変わる」と相手にしてもらえない
 「うちの子は普通です!」と聞き入れてもらえない
 「ちょっと考えさせてください」と決断を先延ばし

障がい者というレッテルが怖い
 この子の将来が一気に暗くなる
 普通や当たり前じゃなくなる
 社会の不要物と扱われる
 一生背負っていくことへの不安
 「みんなと一緒に」から外れてしまう
 経済的にも時間的にも途方もない負担がかかるのでは?

認めたくない理由がきつとある!
 それって何だろう?



我が子の様子を認めない親

話をしても「そのうち変わる」と相手にしてもらえない
 「うちの子は普通です!」と聞き入れてもらえない
 「ちょっと考えさせてください」と決断を先延ばし

障がい者というレッテルが怖い
 この子の将来が一気に暗くなる
 普通や当たり前じゃなくなる
 社会の不要物と扱われる
 一生背負っていくことへの不安
 「みんなと一緒に」から外れてしまう
 経済的にも時間的にも途方もない負担がかかるのでは?

この不安や疑問が解決するためには、
 私たちは何を伝える?



我が子の様子を認めない親

話をしても「そのうち変わる」と相手にしてもらえない
 「うちの子は普通です!」と聞き入れてもらえない
 「ちょっと考えさせてください」と決断を先延ばし

希望と見通し!

発達診断について
診断を受けることで、この子に必要なものがわかる!
子育てに前向きに進めるアドバイスが得られるかも!?
 と伝えてみる



我が子の様子を認めない親

話をしても「そのうち変わる」と相手にしてもらえない
 「うちの子は普通です!」と聞き入れてもらえない
 「ちょっと考えさせてください」と決断を先延ばし

希望と見通し!

療育をいやがる親に・・・
我が子が「変わる」「やれる!」「自信を持つ」
「前向きになれる」という姿が見られるようになるよ
 と伝えてみる



発達面で気になる子の親へのアプローチ

(ア)我が子のことに過度に不安になっている親、
 逆に我が子の様子を認めない親

- ① 後者の場合は「気づいていないフリ」をしていたり、問題を直視できない状態なのかも（そのうち変わる・・・）
- ② 園の独断とならないように、保健師や発達支援センターに連絡して見てもらう
- ③ 専門的に、発達の状況や支援の要不要、今後の対応を確認（複数の目で判断する）
- ④ それを踏まえて、保護者に「相談してみませんか?」と尋ねる

発達面で気になる子の親へのアプローチ

(イ)進学の際の相談についての流れの例（あくまで一例です）

- ① 親が「どの学級に入れたいか」という希望を、一旦は受け止める段階
 通常学級・通級指導教室・特別支援学級・特別支援学校
- ② その場合、どういうメリットやデメリットがあるのか、を伝える段階
- ③ 一度は学校に見学に行ってみて、先生と話しをしてみる段階
- ④ それらを踏まえて「その子が一番生活しやすい環境は?」に意識を持っていく

発達面で気になる子の親へのアプローチ

(ウ)大切なのは・・・

子どもが「**できない自分**」を感じ続けることより
「できる自分」を感じることで、
 それが「**前向きに生きる**」という意識を子ども自身が持てる
そういう学校生活!

(例えば、そこそこの学力がある生徒でも、超進学校の中に入ると・・・)

発達面で気になる子の親へのアプローチ

(エ) 日々の園生活の中での

その子の「**小さな変化(成長)**」を伝えることの大切さ、

日々のお便り帳にて・・・「**ダメ**なことばかりじゃない!を伝える

8割 ①**今日のよかった所、その子らしさが現れていた点**

2割 ②**かかわりの中で、うまく行かなかったこと**

「その子の変化がみられない時」は共に耐えつつ、
今後の成長に期待をする言葉をかけ続ける

発達面で気になる子の親へのアプローチ

(オ) 留意点としては

① 「ああ、そうね（そうですね）」という安易な返答や、
「～しないように」という否定的な返答は、余計に混乱することも

② 気軽な励まし、「がんばって!」、「大丈夫よ」は
プレッシャーになる
具体的な行動の提示、かつ明確な見通しをもって
「○○してみてくださいかな」

③ 「ダメだったら教えて」「また一緒に考えましょ」と、
多少の失敗はしてもいいという姿勢を示しつつ、
あなたのことを見放さないよ ということ伝える

日常の保育を活かした子育て支援

全体的な計画 の記載内容



日常の保育を活かした子育て支援

(ア) 日常の保育のなかでの保護者との関わりの場として

① 送迎時・連絡帳・クラスだより・園だより

② 行事・保護者懇談会・保育参観・個別面談

③ 保護者会活動

・・・次へと繋がる活動(箸袋・農作・行事の主導権→パパサークル)

日常の保育を活かした子育て支援

(イ) 保護者会があるからこそ保護者が育つ

① 子育て仲間をつくる場としての

保護者会の役割の大きさ

② 保護者からの苦情やクレームを

個別対応していくことへの大変さ

日常の保育を活かした子育て支援

(ウ) 保護者同士が、子どもの育ちの姿を語り合うことで、
保護者同士が「学び合う場」となる

保育者は、保護者同士の「**仲間づくり**」が
できるような**コーディネーター**の役割を

「活動」が人と人をつなげる**接着剤**となる!

親との関係づくりの

より具体的 な方法を考える

親との関係づくりのより具体的 な方法を考える

(ア) 親と子ども以外のことと話せるようになってみる

- ① 子どもを抜いた話しをする意味
- ② 個人としての仕事や生活の大変さを理解するためにも
- ③ 「〇〇ちゃんのお母さん」ではなく

「□□さん！」と呼んでみる

「佐藤さん♡最近仕事忙しそうね」

親との関係づくりのより具体的 な方法を考える

(イ) 育児書のような正論より子育て仲間づくりを

- ① 大人はどのようにして親になってきたのだろうか
- ② 「見よう見まね」ができるような親との関わりをづくり
親同士の仲間づくりができるなコーディネーターの役割

そして、次へと繋がる活動を行う

cf.異年齢保育の良さ=人は「教えられて育つ」のではなく、
「周りを見ながら育つ」存在である

親との関係づくりのより具体的 な方法を考える

(ウ) 園でできることは園でやってみる

- ① 「親がやるべき！」という役割分担意識は、
親への批判・攻撃になりやすい
- ② 「指導」「説教」ではなく「助け」でもらったことは
卒後の感謝となり親の自立のエネルギーとなる
(プロとして、親の「甘え」も大目にみる度量をもってみる！)
- ③ どこまでやればいい？全てをやるのか？ではなく、
我が園で、できることをやる ex)熊本の保育所 みんなで送迎

親との関係づくりのより具体的 な方法を考える

(エ) 地域（社会的資源）にヘルプを求める意識と勇気を持つ

- ① 専門施設にヘルプを求めることは、園の恥でも、
悪いことでもありません
- ② 地域の専門施設を知り、そのなかで頼める人との
関係をつくる (ex.児相への不満)
- ③ 地域の各方面にヘルプを出せることも園の能力
(ソーシャルワークの技術)

親との関係づくりのより具体的 な方法を考える

(オ) より具体的な方法として

- ① 挨拶をする “めっちゃ笑顔”をつくってみる
(マスクだからこそ目尻の変化が重要)

**親と挨拶をする時をイメージして・・・
自撮りしてみましょう**

親との関係づくりのより具体的 な方法を考える

(オ) より具体的な方法として

- ① 挨拶をする “めっちゃ笑顔”をつくってみる
(マスクだからこそ目尻の変化が重要)

単純接触効果

最初は特に好きではなかったのに、TVで繰り返し聞いているうちに、
なぜかその曲やアイドルを好きになってしまった。
繰り返し同じ刺激に接触することで、その刺激に親近感を感じてしまう現象

②雑談をする

長く話す必要はない。ちょこっとだけ言葉を交わす

そもそも・・・

保育者と親とが「わかりあえる」関係になれるのか？

「わかりあいたい」を追い求めすぎると、

「わかりあえない」ことが負担になってしまう

保育者が親のことを「ちょっとわかった！」関係

くらいがちょうどよいのではないだろうか

②雑談をする

長く話す必要はない。ちょこっとだけ言葉を交わす

保育者が親のことを「**ちょっとわかった！**」関係
くらいがちょうどよいのではないだろうか

日頃の雑談の中に、その保護者が抱えるいろんな大変さ、
苦悩、行き詰まり感であったり、葛藤であったり、そういう
親としての生きづらさ、しんどさと言うことがちょっとした
雑談の中ににじみ出てきて、それが親を知る、親をわかると
言うことになるのではないだろうか。

親との関係づくりのより具体的 な方法を考える

(オ) より具体的な方法として

- ②雑談をする
長く話す必要はない。ちょこっとだけ言葉を交わす
- ③相手が好きなこと、大切にしていることを聞く・質問する

親との関係づくりのより具体的 な方法を考える

(オ) より具体的な方法として

- ④「ただ話をきく」それだけでも有効

親との関係づくりのより具体的 な方法を考える

(オ) より具体的な方法として

- ⑤「だいじょうぶ」は**見通し**をもって！
「がんばって」は**具体的に明確的に**！
- ⑥**発達論を語る**保育者であれ
(我が子をどう理解したらいいのか + 見通しを持つため)



イヤイヤ期に
ふり回れる親



それは自我の芽生えなんです
「自分」の感情を伝えようと
一生懸命な姿なんですよ！

親との関係づくりのより具体的 な方法を考える

(オ) より具体的な方法として

- ⑦若い親は保育者や他の親の
子育ての「失敗談」から学ぶことが多い
- ⑧言葉のもう一つ奥にある、本当の要求を探ってみること
・・・言葉をそのまま受け取らないという姿勢
(事例：「お昼寝をさせないで」)

親との関係づくりのより具体的 な方法を考える

(オ) より具体的な方法として

- ⑦若い親は保育者や他の親の
子育ての「失敗談」から学ぶことが多い
- ⑧言葉のもう一つ奥にある、本当の要求を探ってみること
・・・言葉をそのまま受け取らないという姿勢
(事例：「お昼寝をさせないで」)
大人こそ「素直」に言えないことが多いのでは？

親との関係づくりのより具体的 な方法を考える

(オ) より具体的な方法として

- ⑨「悩んでませんか？」ではなく
「お話しませんか？」だと気軽になる
- ⑩親が主体性を取り戻すためには、
支援側が急かさず気の長い取り組みで良しとする

相談援助・相談支援の方法

ここからは、相談援助や保育相談支援の具体的な方法などについて学んでいきます

保育相談支援や相談援助の導入

保育相談支援や相談援助の導入

- (ア) 保育現場において、保護者支援は
シャドーワークとして実施されてきた
- (イ) 多様化する保護者の生活様式や子育て意識の変化と、
子育てを支援する役割の明確化
- (ウ) これまで、保育相談支援や相談援助については、
体系化された「学習」としては行われてこなかった。
*2011 から保育者養成校で開講されるようになった

保育相談支援や相談援助の導入

- (エ) つまり、保育者の「**経験知**」としてこれまで
対応されてきた
- (オ) 保護者支援・子育て支援を行う者としての
知識と技術の体系化が求められる
例) カウンセリングの技術やソーシャルワーク的な関わり

保育相談支援や相談援助の導入

- ソーシャルワークとは・・・
- A) **保護者が必要に応じて社会的資源を活用しながら**
子育てを行っていくきっかけを提供すること。
- B) その**最初の段階を支え、なおかつ、**
サービス利用の関係調整などを行う

どうしたらいいのかしら？
どこにいったらいいのやら・・・
誰に頼っていいの？
人に頼るのはきっと迷惑だわ・・・



**子育て不安、
子どもの障がい、
DV、家族関係に悩む
保護者**

誰かに「ヘルプ!」を言えない保護者は多い!!
自分で調べる意識がない。調べる方法さえもわからない!
誰も助けてくれない。こうなったのは自己責任なのだから。

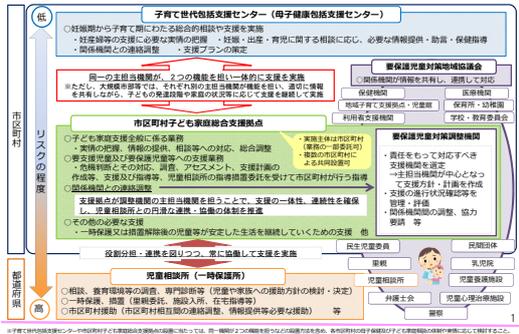
公的な専門機関
児童相談所、福祉事務所、家庭児童相談室、市区町村の子育て支援および保育・教育担当課、子ども家庭総合支援拠点、保健所・保健センター、警察、家庭裁判所



いずれも運営している機関
認定こども園・

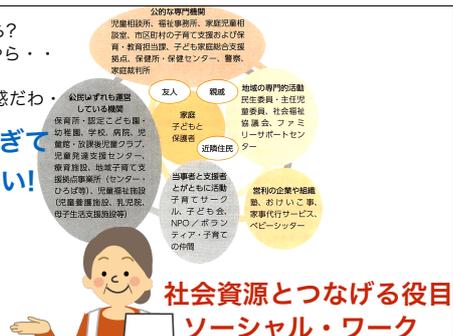
友人 親戚
地域の民生委員、児童委員、協議会
家庭
子どもと

市区町村における児童等に対する必要な支援を行う体制の関係整理（イメージ図）



どうしたらいいのかしら？
どこにいったらいいのやら・・・
誰に頼っていいの？
人に頼るのはきっと迷惑だわ・・・

**たくさんありすぎて
むしろわからない!**



**社会資源とつなげる役目
ソーシャル・ワーク**

保育相談支援や相談援助の導入

- ソーシャルワークとは・・・
- A) **保護者が必要に応じて社会的資源を活用しながら**
子育てを行っていくきっかけを提供すること。
- B) その**最初の段階を支え、なおかつ、**
サービス利用の関係調整などを行う
- (カ) 子どもの権利、保護者の権利を
守ることの大切さと適切な支援を

カウンセリングと保育者としての役割の違いから
保育の専門性と支援のあり方を考える

カウンセリングと保育者としての役割の違いから
保育の専門性と支援のあり方を考える

(ア) カウンセリングが大切にしていること

- ① 共感的な理解をすること、肯定的・受容的な関わりをすること
＝相手を否定しない! →相手からの安心感と信頼関係を得る前提
- ② 特に相手の話を「聴く」ことが強調される。(例: 傾聴)
- ③ クライアント(相談者・依頼者)が悩みを話しやすい状況をつくること
- ④ 加えて、話を聴いてもらうことで、自分の気持ちを整理することができる
- ⑤ 「自分で話す前に、相手の話を聞く」が基本

カウンセリングと保育者としての役割の違いから
保育の専門性と支援のあり方を考える

(イ) 「カウンセリング」と「保育」との違いとは?

- ① 相手(保護者)と会う(真向かう)頻度が多い
- ② 子どもを間に挟んだ関わり
・・・毎日顔を合わせる機会
- ③ 1対1の関係ではないことも
- ④ 相手が「話す」→私が「聴く」という一方的な関わりではなく
「相互に話す」「伝え合う」ことが求められる

カウンセリングと保育者としての役割の違いから
保育の専門性と支援のあり方を考える

(イ) 「カウンセリング」と「保育」との違いとは?

- ⑤ 保育現場では、じっくり話す時間をとることが難しい
- ⑥ 「悩み」があって相談にくるのではなく、
保育者が保護者の気になること＝悩んでいるのでは?
と、積極的に働きかけることが必要になる点

cf.ここが保護者とのトラブルになる原因となることも・・・(おせっかい)
「保育者は子ども専門家であって、家庭に口を出していい存在じゃないでしょ!」

カウンセリングと保育者としての役割の違いから
保育の専門性と支援のあり方を考える

(ウ) カウンセリングとは違う

「保育者」としての保護者への関わり

- ① アドバイスや情報提供などを行うことも多い
- ② しかし、アドバイスを実行するかしないかは、保護者が決めていい
(自己決定)
- ③ 相手の保護者も、間違いながら、試行錯誤しながら、自己決定をする
なかで育つ **「保護者」として育ちながら「人」としても育つ**

cf.子どもが1歳になったら、お母さんも1歳。
きょうだいがいきたら、きょうだいの母0歳からのスタートでいい

相談援助のための原則や方法

相談援助のための原則や方法

(ア) バイステックの7つの原則

- ① **個別化の原則** (以前のケースと同一視しない)
過去似たケースや相談があっても、「今回も同じだろう」と
勝手に当てはめない

相談援助のための原則や方法

(ア) バイステックの7つの原則

- ② **意図的な感情表現の原則** (相手の感情表現を大切に)
相手が感情をうまく表現できない場合もある。
感情を自由に表現しやすいように 安心感を与えるために
共感や励ましをしつつ、隠された感情やニーズがないか注意を払う

相談援助のための原則や方法

(ア) バイステックの 7 つの原則

- ③ **統制された情緒関与の原則**（援助者は自分の感情を自覚して）
相談者の考えに同意・同感できることも大切。
しかし相手の感情に流されたり、もしくは逆に苛立ったりしないように、自分の感情をコントロールしつつ冷静な対応を!

相談援助のための原則や方法

(ア) バイステックの 7 つの原則

- ④ **受容の原則**（相手を受け止める）
保護者の生き方、個性、考えなど、相談内容や養育態度などについても、まずは一旦受け止める。受け止められていない相手とは信頼関係が築けませんからね

相談援助のための原則や方法

(ア) バイステックの 7 つの原則

- ⑤ **非審的態度の原則**（相手を一方的に非難しない）
思いつき、自分の価値観（私はこうしてきた）で「～すべきでしょ」という指示や非難をしてはいけない。批判的な態度や審判的な見方を感じると、言葉が伝わりません

相談援助のための原則や方法

(ア) バイステックの 7 つの原則

- ⑥ **自己決定の原則**（相手の自己決定を尊重する）
自分で決めるからこそ人は強く行動に移すことができます。
そのために適切な情報を提供することや、話し合いを重ねて奥にある意図を明らかにすることが大切。「（園に）お任せします」とならないこと。

相談援助のための原則や方法

(ア) バイステックの 7 つの原則

- ⑦ **秘密保持の原則**（他者に漏らさず、信頼を深める）
守秘義務と同義。全国保育士会倫理綱領の 4 にも。
保護者からの信頼を裏切らないように。

相談援助のための原則や方法

(イ) 相談援助における基本的な面接技術

- ① 質問技法・・・情報収集を行い会話がスムーズに進むための技法
- A) 「**閉じた質問**（クローズド・クエスチョン）」と
「**開いた質問**（オープン・クエスチョン）」
- 「閉じた質問」＝「はい」「いいえ」で答えられる質問
「開いた質問」＝多様な回答を出すことができるような質問

相談援助のための原則や方法

(イ) 相談援助における基本的な面接技術

- ① 質問技法・・・情報収集を行い会話がスムーズに進むための技法
- B) 事例「佐藤さんのケース」より

【Working Time】

保育士の発言から「閉じた質問」「開いた質問」を探し、それぞれの質問技法のメリットや相談者に与える影響はどのようなものがあるかを考えてみましょう。

相談援助のための原則や方法

(イ) 相談援助における基本的な面接技術

- ① 質問技法・・・情報収集を行い会話がスムーズに進むための技法
- C) 「閉じた質問」のメリットや影響
- i. 回答を出しやすい・返答をしやすい。すぐに回答を得られやすい。
ii. 初対面の場合など、相手の緊張をほぐすときや、事実関係を確かめて話題を絞り込むときに使用できる。

相談援助のための原則や方法

(イ) 相談援助における基本的な面接技術

- ① 質問技法・・・情報収集を行い会話がスムーズに進むための技法
- C) 「閉じた質問」のメリットや影響
 - iii. この質問ばかりでは尋問のような雰囲気となり、話が深まらない。
 - iv. 「閉じた質問」は、出会ったばかりの時期や事実確認が必要な場合に必要最小限にとどめ、基本的には、開かれた質問を使い、保護者に話してもらいながら、丁寧に聴くことが求められる。

相談援助のための原則や方法

(イ) 相談援助における基本的な面接技術

- ① 質問技法・・・情報収集を行い会話がスムーズに進むための技法
- D) 「開いた質問」のメリットや影響
 - i. 【担任①】「どのようなときにイライラするのですか？」のように、保護者の話をさらに深めて、情報を収集することができる。「いつ」「どこで」「誰が」「何を」「どのように」などを用いる。
 - ii. 具体的な内容を聞き出したときに有効。

相談援助のための原則や方法

(イ) 相談援助における基本的な面接技術

- ① 質問技法・・・情報収集を行い会話がスムーズに進むための技法
- D) 「開いた質問」のメリットや影響
 - iii. 注意点：「なぜ（どうして）」を多用しないようにする。理由は、質問される側が尋問のように責められていると感じてしまい、また質問される側が一人で考え込む可能性が高くなる。

(イ) 相談援助における基本的な面接技術

- ② 明確化技法・・・「はげまし」「言い換え」「要約」の3つ
 - はげまし = 相手の話を促す。「相づち」や「繰り返し」という方法をとる
 - i. 「相づち」をすることにより、あなたの話に反論する意思のないことを伝えることができ、肯定的な姿勢を示す行動となる。
 - ii. 「繰り返し」は、発言の一部を繰り返す方法で、相手の言葉（とりわけ感情への繰り返し）を繰り返すことで、話しを聞いていることを示すと同時に、あなたの言葉を理解していますよ、共感していますよ、というメッセージを相手に伝えることができる。

(イ) 相談援助における基本的な面接技術

- ② 明確化技法・・・「はげまし」「言い換え」「要約」の3つ
 - 言い換え = 保護者の話をわかりやすくして返す技法。
- 保護者に自分が話した内容の確認、追加の説明や訂正の機会を提供する。
- 使用例：【担任③】「ごはんの間、ずっと動きまわっていて」

(イ) 相談援助における基本的な面接技術

- ③ 感情の反映技法・・・保護者の感情に焦点を当て、接近するための技法
 - A) 保護者の感情を受け止め、対応することで、より共感的にかかわる
 - B) 自分の抱える「問題」に対する「感情に向き合う」ほうが、気持ちを整理でき、問題に向き合いやすくなる。
 - C) 感情に焦点を当て、質問技法や明確化技法を使用する。
 - D) 【佐藤⑤】の「先生やほかのお父さんやお母さんたちを見ていると、何かこう……」を受けて、【担任④】の「気持ちを聞かせてください」と開いた質問を使って、感情表現を促している。

(ウ) 相談者として気をつけるべき姿勢（保育者あるある）

- ① 思い込みが激しい保育者 「ああ、あるある。わかるわー〇〇と一緒にね」
- ② すぐに結論を出したがる保育者 「つまり〇〇っていうことでしょ」
- ③ アドバイスをしたがる保育者
 - 「そういうときは私は〇〇したわ」「□□してみてよ」
- ④ 沈黙が耐えられない保育者 「相手の反応を待ちきれない保育者」
- ⑤ 上から目線の保育者 「とにかく〇〇してください! 困りますんでっ!」

相談援助の展開

相談援助の展開

(ア) 相談援助とは・・・

- ① 何らかの生活上の問題を抱える人に対して、支援者がその人に助言したり、その人が必要とする社会資源とつなげられるようにし、その本人が問題解決に自ら取り組めるように支えるための活動のこと。
 - ② 「生活上の問題」として挙げられるもの
 - ・病気・障がい・貧困・離婚・家庭不和・介護・失業など
- cf. 保護者の高齢化＝以前とは違う困難さや問題について考える必要が出てくることも
- ③ これらが「育児不安」や「不適切な養育」へとつながる可能性が大きい!

相談援助の展開

(ウ) 相談援助の展開過程

- ① 支援の開始 (インテーク)
- ② 事前評価 (アセスメント)
- ③ 支援計画の作成 (プランニング)
- ④ 支援の実施 (インターベンション)
- ⑤ 経過観察 (モニタリング)
- ⑥ 事後評価 (エバリュエーション)
- ⑦ 終結

相談援助の展開

(ウ) 相談援助の展開過程

① 支援の開始 (インテーク)

保護者から相談を受けた場合、家族・親族から相談を受けた場合、保育士等が親子の変化に気づき、問題を把握した場合、関係機関から委託された場合など

保護者は問題に対する不安と、その問題を保育者に話すことに対する不安を抱く。保育士等を避ける、拒否するなどの態度として現れることもある。

相談援助の展開

(ウ) 相談援助の展開過程

② 事前評価 (アセスメント)

親子の状況を理解するために必要な情報を集め、分析し、支援の見立てを行う段階。情報収集は、親子の観察や面談などを行う。これらを通して、保護者の隠れた真のニーズを把握したり、保護者と子どもの気持ちのズレなども検討に入れる。

収集する情報→子どもの状況、家庭での養育の状況、家族の状況など。記録の際は、情報収集シートや、エコマップなどを用いて図式化。

相談援助の展開

(ウ) 相談援助の展開過程

② 事前評価 (アセスメント)

【Working Time】

添付資料「情報収集シート」に、事例「佐藤さんのケース」について、記入して みましょう (30min)

情報収集シートの見本

情報収集シート (例)		保護者氏名		住所	
氏名	性別	氏名	氏名	住所	連絡先
氏名	性別	氏名	氏名	住所	連絡先
健康・発育	発達	基本的な生活習慣 (身辺自立)	対人関係 (保育者・他児)	情緒	
健康・発育	発達	基本的な生活習慣 (身辺自立)	対人関係 (保育者・他児)	情緒	
健康・発育	発達	基本的な生活習慣 (身辺自立)	対人関係 (保育者・他児)	情緒	
健康・発育	発達	基本的な生活習慣 (身辺自立)	対人関係 (保育者・他児)	情緒	
健康・発育	発達	基本的な生活習慣 (身辺自立)	対人関係 (保育者・他児)	情緒	
健康・発育	発達	基本的な生活習慣 (身辺自立)	対人関係 (保育者・他児)	情緒	
健康・発育	発達	基本的な生活習慣 (身辺自立)	対人関係 (保育者・他児)	情緒	
健康・発育	発達	基本的な生活習慣 (身辺自立)	対人関係 (保育者・他児)	情緒	

情報収集シート (例)

項目	健康・発育	発達	基本的な生活習慣 (身辺自立)	対人関係 (保育者・他児)	情緒	具体的な状況
健康・発育						
発達						
基本的な生活習慣 (身辺自立)						
対人関係 (保育者・他児)						
情緒						

相談援助の展開

(ウ) 相談援助の展開過程

② 事前評価 (アセスメント)

【Working Time】

添付資料「情報収集シート」に、事例「佐藤さんのケース」について、記入して みましょう (30min)

提出する必要はありません! シートに記入してみることで、相談内容を”整理してみる体験”を行うことが目的です。

情報収集シート (例) **記入の例** *これが「正解」ではありません。一例です。

児童氏名	佐藤 一郎	保護者氏名	佐藤 太郎 (父)		
住所			連絡先		
これまでの親子の状況・面談内容					
	項目	問題あり	気になる	問題なし	具体的な状況
① 子ど	健康・発育			○	
	発達			○	

項目	問題あり	気になる	問題なし	具体的な状況
① 健康・発育			○	
発達			○	
② 子どもの状況			○	基本的な生活習慣 (身辺自立)
			○	食事をガツガツ食べる
			○	対人関係 (保育者・他児)
			○	情緒
③ 家庭での養育状況			○	親子関係 (子→保護者、保護者→子への態度)
			○	生活リズム (食事・睡眠)
			○	衛生・保健・事故防止・監護
			○	登園状況

② 家庭での養育状況	親子関係 (子→保護者、保護者→子への態度)		○	子どものかかわり方がよくわからず戸惑っている
	生活リズム (食事・睡眠)		○	日常的に朝食を食べていない
	衛生・保健・事故防止・監護		○	朝、顔が汚れており、時々匂いが気になる。おむつかぶれがよくならない
	登園状況		○	
③ 家族の状況	保護者の心身の状況	○		佐藤さん (父) は心臓疾患
	家族関係		○	最近、妻 (花子) さんと離婚
	社会関係 (園との関係含む)		○	職員を避けようとした。周囲に親戚や知り合いがいない状況で孤立気味。
	就労状況		○	佐藤さんは無職で現在求職中
	経済状況	○		貯金を切り崩しながら生活をしており苦しい状況
上記を踏まえ				

相談援助の展開

(ウ) 相談援助の展開過程

②事前評価 (アセスメント)

親子の状況を理解するために必要な情報を集め、分析し、支援の見立てを行う段階。情報収集は、親子の観察や面談などを行う。これらを通して、保護者の隠れた真のニーズを把握したり、保護者と子どもの気持ちのズレなども検討に入れる。
収集する情報→子どもの状況、家庭での養育の状況、家族の状況など。
記録の際は、情報収集シートや、エコマップなどを用いて図式化。

相談援助の展開

(ウ) 相談援助の展開過程

③支援計画の作成 (プランニング)

事前評価で明らかになった親子の抱える問題に対する目標、すなわち、問題を解決するために何をすべきかを設定したものを定める段階。
例えば、「生活が苦しい」に対する目標は、「経済的な安定を図る」など。目標達成のための具体的な支援内容について保護者の思いを尊重しつつ考えることが重要。また、園でできることや家庭でできることを踏まえつつ、その役割分担を決定。
作成した支援計画の内容については、職員間で対応のズレが生じないように共通理解する必要がある。

相談援助の展開

(ウ) 相談援助の展開過程

④支援の実施 (インターベンション)

保護者の話を傾聴しつつ、感情や気持ち、思いを受け止める。保護者に、子育てに活用ができる具体的な方法を助言する。例えば、年齢に合わせた食や衣類など子どもと共に生活のための具体的な方法の提示や、子どもへの言葉のかけ方など。そういう意味でも、保育者が子育ての具体的なやり方を実際の行動で示すことも有効となる。

相談援助の展開

(ウ) 相談援助の展開過程

④支援の実施 (インターベンション)

保護者や子どもが利用できる社会資源 (専門機関やサービス) について、保護者に説明し、その利用を促すことも重要。保育者が専門機関や社会資源を紹介し、その連絡・調整を行うことも。そのため、保育所がほかの専門機関や専門職と連絡・調整等ができるよう、協力関係を築くこと。

相談援助の展開

(ウ) 相談援助の展開過程

⑤経過観察 (モニタリング)

支援の実施の後に、意識的の子どもの状態や保護者の状態を見守る。支援の実施状況や、親子の状況の変化、生活の変化にはどのようなものがあるのか、また新たな問題が発生していないか、ということも確認する必要がある。
必要に応じて、再度面談なども実施。

相談援助の展開

(ウ) 相談援助の展開過程

⑥事後評価（エバリュエーション）

課題が達成されているか評価を行う。支援計画で立てられた目標がどのように達成されたか、具体的には保護者の様子や生活の変化によりどのような状況になったのか（好転しているか）を評価する。
それによっては、再度の支援計画の練り直しなども必要となる。

相談援助の展開

(ウ) 相談援助の展開過程

⑦終結

事後評価において、目標達成が確認され、新たな支援が必要ないと判断された場合でも、保育所全体で継続的な見守りを行うことが求められる。同時に、保護者にはいつでも相談できる旨を伝えることも必要。

貧困・虐待について考える

貧困や虐待は、子育ての問題でもありますが、国民全体で考えるべき社会問題です。その現状を理解するとともに、園としてどういった支援が必要なのか学びます。

貧困家庭・ひとり親家庭と生活の荒れ

貧困家庭・ひとり親家庭の現状と生活

(ア) 貧困家庭 13% = (7~8 家庭につき 1 家庭)もいる
「貧困大国」日本

また、ひとり親家庭だと、**貧困家庭の割合は 5 割を超える!**

目安 3人世帯：年収 211 万
4人世帯：年収 244 万 以下で生活している世帯)

貧困家庭・ひとり親家庭の現状と生活

(イ) 子どもの貧困の定義

① 貧困の 2 つの定義

A) **絶対的貧困**：生存維持に最低限必要な衣食住が保たれない状態
(日本には生活保護制度があるので、制度上存在しないことになっているが)

B) **相対的貧困**：先進諸国における貧困

その社会において標準的な生活様式や習慣、活動に参加できない低い水準、「人並み」の生活ができない所得しか得られていない

cf.九州は貧困率が高い!

貧困の中で育つ子どもたち

貧困は子どもの成長にどのような影響を及ぼすのか

以前の貧困・・・目に見える貧困

現代の貧困・・・見えにくい貧困

持ち物や服装で判断できない・困り感が見えない

それと同時に「ヘルプ（助け）」を求めることができない
社会保障の制度や専門機関へのアクセス

貧困家庭・ひとり親家庭の現状と生活

(ウ) 貧困家庭における困難さや格差とは

- ① 不十分な衣食住（食の偏り具合 ジャンクフード多い 肥満傾向）
- ② 健康・発達面への影響（保健・衛生面など含む）
- ③ 医療の格差（予防接種・病院や歯科受診の少なさ）
- ④ 保護者の労働問題とストレス（将来への期待感のなさ、ロードモデルの欠如）
- ⑤ 養育態度の問題と虐待（労働や生活苦のストレスの矛先として）
- ⑥ 学習資源の不足と低学力（絵本・図鑑がない、虐待による心的影響も）
- ⑦ 低い自己肯定感（どうせ○○できない など *学習性無力感）

(フ)貧困家庭における困難と格差とは

- ① 不十分な衣食住 (食の偏り具合 ジャンクフード多い 肥満傾向)
- ② 健康・発達面への影響 (保健・衛生面など含む)
- ③ 医療の格差 (予防接種・病院や歯科受診の少なさ)
- ④ 保護者の労働問題とストレス (将来への期待感のなさ、ロードモデルの欠如)
- ⑤ 養育態度の問題と虐待 (労働や生活苦のストレスの優先として)
- ⑥ 学習資源の不足と低学力 (絵本・図鑑がない、虐待による心的影響も)
- ⑦ 低い自己肯定感 (どうせ○○できない など *学習性無力感)
- ⑧ さまざまな体験の不足 (誕生日会なし、旅行しない)
- ⑨ 孤立・排除 (学校内での差別的関わり)
- ⑩ 将来への見通し (投資) の格差 (学習塾 や 進学率にも影響が)

貧困 の中で育つ子どもたち

貧困は子どもの成長にどのような影響を及ぼすのか

現代の貧困・・・見えにくい貧困

貧困による影響

文化的・教育的な資源と出会わない

さまざまな経験の不足

親の労働問題・ストレス

虐待・ネグレクト

低学力・自己否定感

貧困 の中で育つ子どもたち

貧困は子どもの成長にどのような影響を及ぼすのか

貧困による影響

文化的・教育的な資源と出会わない

さまざまな経験の不足 親の労働問題・ストレス

虐待・ネグレクト 低学力・自己否定感

貧困 (虐待も) は連鎖する

連鎖を断ち切るのは「 」である

貧困 の中で育つ子どもたち

貧困は子どもの成長にどのような影響を及ぼすのか

どうしても、親自身の問題「自己責任」と捉える日本人！

本来は国や自治体の手厚く対策をすべきもの

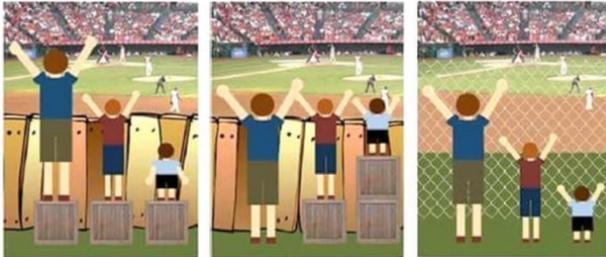
*欧米での考え方との違い

社会全体でフォローできる姿勢をつくるのが「福祉」

「教育現場」と「自由経済」にどっぷり浸かって育った私たちは

「福祉的な心持ち」は何度も何度も学ばないと身につかないのでは？

「相互扶助 (お互い様)」よりも、「能力主義」と「自己責任」の中で育った世代



平等な支援

公平な支援

障害要因の除去

虐待の状況と対応事例

虐待の状況と対応事例

(ア) 4 つの虐待の種類

- ① 身体的虐待：子どもの身体への外傷を生じさせる、またはその恐れのある行為
- ② 性的虐待：わいせつな行為をすること、強いること、見せること
- ③ ネグレクト：十分食事を与えない、監護者としての役割を怠る
- ④ 心理的虐待：心理的外傷を与える行為

cf. 今求められる幼児期からの性教育 (自分の身体と心を守る教育=子どもの権利教育でもある)

虐待の状況と対応事例

(イ) 虐待が発生しやすい要因とは？

① 保護者自身による要因

- A) 育児不安・育児ストレスによるもの
- B) 保護者自身の虐待の経験 (虐待の世代間連鎖)
- C) 保護者の病気や障害 (体調不良による養育力の低下、認知機能の変化なども)
- D) 精神的に不安定な時期や状態 (産後すぐ、アルコール依存など)

虐待の状況と対応事例

(イ) 虐待が発生しやすい要因とは？

②家族をとりまく要因

- A) 核家族によるもの（育児の相談者の不在）
- B) 不安定・非協力的な夫婦関係（DV など）
- C) 経済的な不安（雇用の不安定さ、収入の不安定さ＝貧困）
- D) 近隣や地域からの孤立

虐待の状況と対応事例

(イ) 虐待が発生しやすい要因とは？

③子どもの要因

- A) 育てにくい（と感じる）子ども（かんしゃく、おねしょ、こだわり）
- B) 病気や障がいの有無（入退院、発達の遅れによる不安）

知的障がいの子どもの虐待の発生率 12-58%

行動面・情緒面に問題がある子どもに対する発生率 28-58%

これらが複数項目で重なることで、虐待発生の可能性は大きくなる！

虐待の状況と対応事例

(ウ) 幼児期では比較的多いのは・・・ネグレクト

- ① 子どもの健康・安全への配慮を怠っている状態
- ② 子どもの意に反して園や学校に行かせない
- ③ 子どもからの情緒的要求に応えない **cf.スマホネグレクトと愛着障害**
(愛情の遮断 きょうだいによる対応の差)
- ④ 衣食住などが極端に不適切で、健康を損なうほどの無関心や怠慢
- ⑤ 子どもを遺棄（放っておく）こと、置き去りにすること
- ⑥ 同居人や自宅に出入りする第三者の虐待行為を放置・黙認する

虐待の状況と対応事例

(エ) 虐待されている子どもの行動上の特徴例

- ① 語りかけられても表情が乏しく、笑わない、視線が合わない
- ② 給食のとき、食欲がなかったり何回もおかわりを要求したりすることがある
- ③ おびえたような泣き方で、抱かれると離れたがらず、不安定な状況が続く
- ④ ささいなことに反応し、感情の起伏がはげしく、パニックを起こしやすい
- ⑤ ウソを突き通そうとするなど、自分を守ろうとする
- ⑥ モノに執着する。友達や園のモノを隠したり、カバンに入れたりする
- ⑦ 用がなくても、保育者のそばを離れず、ベタベタと甘えてくる

- ① 語りかけられても表情が乏しく、笑わない、視線が合わない
- ② 給食のとき、食欲がなかったり何回もおかわりを要求したりすることがある
- ③ おびえたような泣き方で、抱かれると離れたがらず、不安定な状況が続く
- ④ ささいなことに反応し、感情の起伏がはげしく、パニックを起こしやすい
- ⑤ ウソを突き通そうとするなど、自分を守ろうとする
- ⑥ モノに執着する。友達や園のモノを隠したり、カバンに入れたりする
- ⑦ 用がなくても、保育者のそばを離れず、ベタベタと甘えてくる
- ⑧ 保護者が迎えに来てても、無視して帰りがたらない
- ⑨ わざと怒らせるような振る舞いをする（叱られてもコミュニケーションを取ろうとする）
- ⑩ 特定の保育者以外の大人にも人なつっこい。抱っこをもとめるとやまない

この特徴に当てはまる = 虐待されている！と決めつけはけません！！

- ⑦ 用がなくても、保育者のそばを離れず、ベタベタと甘えてくる
- ⑧ 保護者が迎えに来てても、無視して帰りがたらない
- ⑨ わざと怒らせるような振る舞いをする（叱られてもコミュニケーションを取ろうとする）
- ⑩ 特定の保育者以外の大人にも人なつっこい。抱っこをもとめるとやまない

この特徴に当てはまる = 虐待されている！と決めつけはけません！！

ですが・・・

虐待かどうかの判断は専門機関が行います。

疑いの段階で通報して問題ありません！

通報者に不利益が生じないよう法的に保護されています。

迅速な行動が子どもを救う第一歩。ためらわずに行動してください！

疑いの段階で通報して問題ありません！

**通報者に不利益が生じないよう法的に保護されています。
迅速な行動が子どもを救う第一歩。ためらわずに行動してください！**

全国共通ダイヤル「189（いちはやく）」

児童相談所につながります。

通報は匿名も可能、秘密は守られます。

地域の児童相談所、市役所、福祉事務所もOK

緊急の場合は警察（110番）や救急（119番）に！

「オレンジリボン運動」
子ども虐待防止のシンボルマークとしてオレンジリボンを広め、子ども虐待をなくすことを呼びかける市民運動です。
オレンジリボン運動を通して子どもの虐待の現状を伝え、多くの方に子ども虐待の問題に関心を持っていただき、市民のネットワークにより、虐待のない社会を築くことを目指しています。

子どももっている権利

- 1. 虐待防止のシンボルマークとしてオレンジリボンを広め、子ども虐待をなくすことを呼びかける市民運動です。
- 2. オレンジリボン運動を通して子どもの虐待の現状を伝え、多くの方に子ども虐待の問題に関心を持っていただき、市民のネットワークにより、虐待のない社会を築くことを目指しています。

189 (いちはやく) 児童相談所
0120-189-783

虐待の状況と対応事例

(オ) 園ではできない支援とは・・・

やるべきでないことを仕分けることの大切さ

②できないことの例として・・・

- A) 子どもの夜間や休日の見守り、預かり
- B) 全面的な家事支援（一時的、部分的は可能であっても）
- C) 子どもの一時保護・入院に関わること（保護者との信頼関係が崩れる恐れ）
- D) 保護者への経済的支援（お金を渡すのではなく、支援の窓口につなげる）

虐待の状況と対応事例

(カ) 虐待対応の流れ

- ① 気づきの段階
- ② 園内の体制づくりと見守りの段階
- ③ 通告・相談の段階
- ④ 関係機関との連携の段階
- ⑤ 引き継ぎ・ケース離れ

関係機関とその連携

(ア) 関係機関（社会的資源）

- ① 市町村での虐待通告・相談窓口
- ② 児童相談所
- ③ 保健所
- ④ 福祉事務所
- ⑤ 警察
- ⑥ 要保護児童対策地域協議会
- ⑦ 子育て世代包括支援センター・子ども家庭総合支援拠点

関係機関とその連携

(イ) 関係機関連携の大切さと対応の遅さへの批判

- ① 我がクラスの子どもであるが故の切実性、一般的通告者との違い
- ② 通告後の対応としての保育所への差し戻しと支援のなさ
- ③ 他機関・施設について理解不足や相互の勘違いからの不信感
- ④ 関係機関に信頼できる「人」を見つけておくこと「〇〇さんに聞いてみよう！」

虐待している親への対応

(ア) 保護者への怒りや悲しみを振りかざして批判しないこと！

(イ) そこへ追いやられてしまった状況の理解を。

(ウ) 社会から隔絶されて、

必要な支援が受けられなかった人として向かい合うこと

(エ) 必要な支援と出会う機会をつくり、

子どもも保護者も幸せに向かうぞと意識

(オ) 園に子どもを連れてくるのがもっとも重要となる

保育時間の延長で子どもを守る！

講座のまとめ